

1. 本事業の背景・目的

- 医・歯・薬が連携し、糖尿病患者の歯周病リスクを低減することは、糖尿病重症化予防の観点から重要である。そこで、愛知県では、令和2年度から令和4年度に実施した「医歯薬連携による糖尿病重症化予防モデル事業」において、医歯薬連携のためのプログラムを開発し、モデル地域における試行及び実効性・有効性の検証に取り組んできた。
- 今年度は、モデル事業の成果を踏まえ、地域におけるプログラムの実施を促進するとともに、中長期的な効果検証を含むプログラムのPDCAを回す仕組みを構築することを目的とする。

2. 事業内容

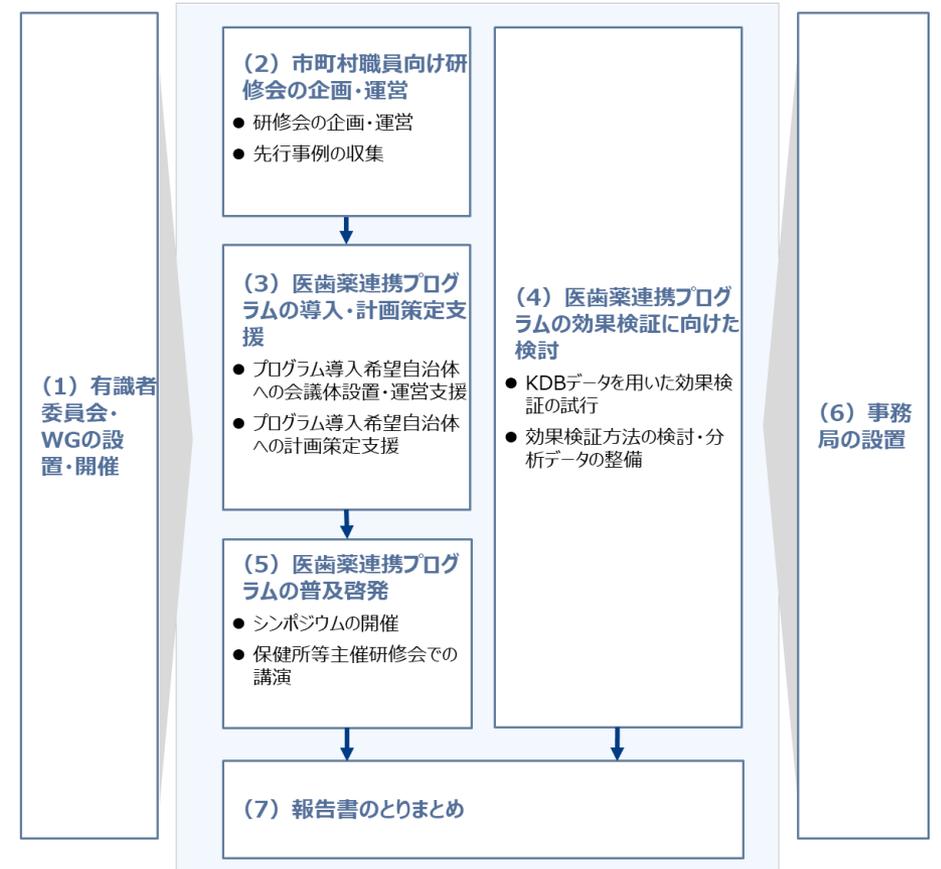
【実施体制】



【有識者委員】(敬称略、五十音順)

	氏名	所属
委員長	内堀 典保	一般社団法人愛知県歯科医師会 会長
委員	天野 晃治	一般社団法人愛知県薬剤師会 常務理事
	井出 博生	東京大学未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット 特任准教授
	上村 誠一郎	一般社団法人愛知県歯科医師会 副会長
	杉山 雄大	国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所 糖尿病情報センター 医療政策研究室 室長
	鈴木 尚次郎	愛知県国民健康保険団体連合会 総務部保健事業課 課長
	三谷 章雄	愛知学院大学歯学部 主任教授
	横山 正	公益社団法人愛知県医師会 理事

【実施項目】



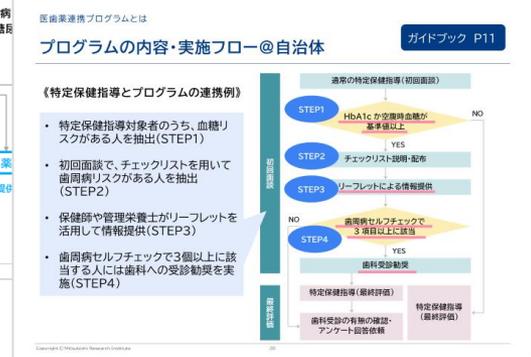
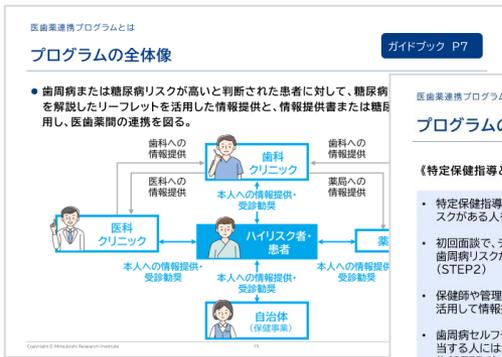
3. 結果

【市町村職員向け研修会の開催】

- 医歯薬連携プログラムの目的、成果、プログラムにおける自治体の役割について説明し、プログラムの理解促進を図るため、市町村職員向けの研修会を開催。54市町村のうち、47自治体が研修会に参加。
- 今年度からプログラムを実施すると回答した市町村が2件、来年度からの実施を検討すると回答した市町村が16件と、研修会参加市町村の約4割が本プログラムの実施意向を示した。

《研修会プログラム》

	プログラム	講演者
1	開会挨拶	愛知県国民健康保険課長
2	医歯薬連携による糖尿病重症化予防プログラムの目的・意義について	愛知県国民健康保険課
3	医歯薬連携による糖尿病重症化予防プログラムについて	事務局(三菱総合研究所)
4	医歯薬連携プログラムの事例紹介 ・豊橋市の事例 ・東海市の事例	豊橋市健康部健康増進課 事務局(三菱総合研究所)
5	質疑応答	—
6	閉会	—

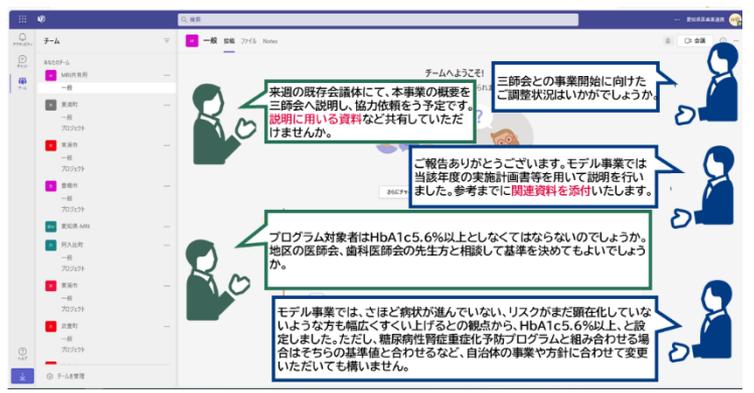


【医歯薬連携プログラム導入・計画策定支援(1/2)】

- 市町村の保健事業や三師会との連携状況に合わせたプログラム導入のための個別支援を実施した。
- 各市町村との連絡調整を行う際にMicrosoft Teamsを活用し、タイムリーな情報提供、問い合わせ対応、進捗管理を行った。

	9月~10月	11月~12月	1月~2月
共通	<ul style="list-style-type: none"> ● 専用Teamsの設置 ● Teamsの登録支援 ● 地区三師会への事前説明支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● Teamsを活用した情報提供、資料提供 ● 意見交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● Teamsを活用した情報提供 ● 意見交換会の開催 ● 今年度の成果報告・共有
STEP1	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体保健事業との連携に関する助言・問い合わせ対応 ● 計画策定支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画策定支援 ● 職員に対するプログラム説明 ● 問い合わせ対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 問い合わせ対応 ● 事例共有
STEP2	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画策定支援 ● 事務局設置支援 (FAQ提供等) ● 会議運営支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画策定支援 ● 問い合わせ対応 ● 会議運営支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● Teams等を活用した問い合わせ対応 ● 事例共有
STEP3	<ul style="list-style-type: none"> ● 同上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 同上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 同上

《専用Teamsを活用した情報提供・問い合わせ管理》



3. 結果

【医歯薬連携プログラム導入・計画策定支援(2/2)】

- モデル事業で先行的にプログラムを実施していた豊橋市に加え、市町村職員向け研修会後にプログラム実施を検討・希望している市町村に対して支援を実施。シンポジウムの案内等の情報提供や資料等の提供を行ったほか、8市町村に対してプログラムの計画策定支援を実施。
- 豊橋市では今年度プログラムを開始、大府市等の6市町村では次年度プログラムを開始予定。その他、5市町村では次年度以降のプログラム導入を検討中。
- また、市町村支援の一環としてオンラインでの意見交換会を開催。第1回は先進事例(豊橋市・大府市)の共有と質疑応答、第2回はプログラムの効果検証方法の紹介と意見交換を実施。

≪プログラム導入支援の実施状況≫

支援内容	市町村数	概要
情報提供(うちTeams 登録)	22(12)	<ul style="list-style-type: none"> ● 共通の資料・ひな形等の提供 ● シンポジウム・意見交換会の案内 ● 意見交換会のアーカイブ配信 ● 問い合わせ対応 等
計画策定支援(うち確定)	7(4)	<ul style="list-style-type: none"> ● 医歯薬連携プログラムの計画策定の支援(ひな形提示、個別打合せの実施、等)
地区三師会への説明支援	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 市町村による三師会への説明の支援 ● 三師会会員向け説明会の支援
意見交換会	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 市町村間の情報共有を図るための意見交換会の開催

≪プログラムの実施状況≫ ※両方実施している場合それぞれ1としてカウント

プログラムの実施状況	市町村
今年度からプログラムを開始	1 (豊橋市)
うち、市町村の保健事業との連携 ※	1
うち、地区三師会との連携 ※	1
次年度プログラムを開始予定	6
うち、市町村の保健事業との連携 ※	5
うち、地区三師会との連携 ※	2
次年度以降プログラムの実施を検討	5

≪意見交換会参加市町村≫

回	参加市町村(五十音順)
第1回	大府市、岡崎市、知多市、豊明市、豊橋市、半田市、南知多市
第2回	犬山市、大府市、岡崎市、知多市、豊明市、豊橋市、(半田市)、東浦町、南知多町、美浜町 ※半田市は後日動画共有

≪意見交換会での主な意見≫

- 実施体制構築について**
- 本事業は国保年金課が担当となるが、地区三師会とのつながりがある健康増進課の力を借りて三師会への働きかけを進めてはどうか。
 - 地区三師会との連携、協力依頼方法が課題。普段医師会が参加している市の運営会議に歯科医師会、薬剤師会にも参加してもらったという大府市の方法は参考になる。
 - 町外に患者のかかりつけ医がいるケースでは市町村レベルの管理は難しい。二次医療圏でプログラムを進めてもらう方がやりやすい。また、プログラム実施市町村以外の市町村にも周知が必要。
- プログラムの効果検証について**
- アウトカムとして、医療機関への受診率に加え、将来的にはHbA1cの変化を見ていくことが重要。
 - 他市町村や愛知県平均との比較により自市町村のプログラムの効果が見てくるのではないか。
 - どの市町村でも活用できる指標づくりが重要。また、全市町村共通の指標で評価するのであれば、評価方法をマニュアル化できるとよい。

3. 結果

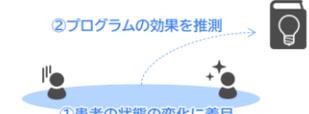
【医歯薬連携プログラム効果検証方法の検討】

- モデル事業で検討してきた評価・分析の枠組みを踏まえ、KDBデータに基づく医歯薬連携プログラムの効果検証方法を検討した。
- アウトカム指標として「受診勧奨」に着目。糖尿病患者に対する歯科クリニックへの受診勧奨、特定保健指導対象者に対する歯科クリニックへの受診勧奨について効果検証手法を検討し、2018～2021年度のKDBデータを用いた集計を実施した。
- 一方、歯周病患者に対する医科クリニックへの受診勧奨は、KDBデータからの歯周病患者の特定が難しく、指標の構築には至らなかった。

≪ 分析の概要 ≫

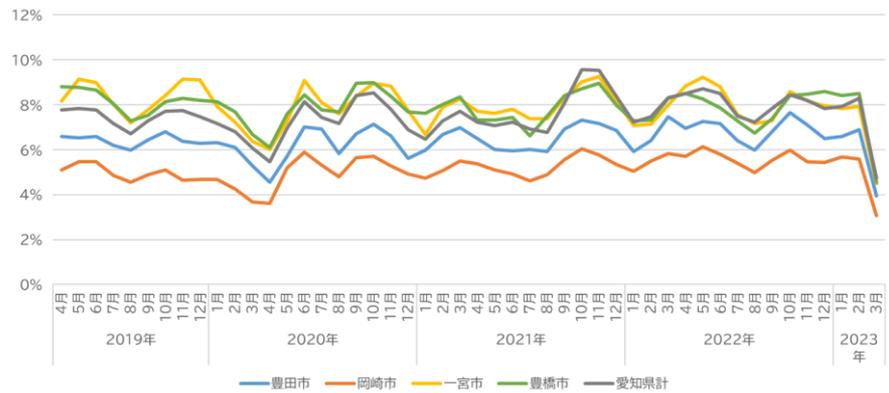
介入規模分析 ～何人の患者に介入できたか～ (評価指標分類:アウトプット)	介入効果分析 ～糖尿病・歯周病改善につながったか～ (評価指標分類:アウトカム)	
		目的
<ul style="list-style-type: none"> モデル事業では、アウトプット(情報提供者数、受診勧奨者数など)を医療機関へのアンケートで聴取。アンケートは愛知県が集計・分析。 自治体が各自で分析できることが望ましく、KDBデータによるアンケートの代替を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業においては、アウトプットの効果検証に留まった。患者の健康データを活用したより高度な効果検証を行う必要がある。 本事業では、KDBデータを用いたアウトカムの効果検証に向けて、要件/課題整理を行う。 	内容
<ul style="list-style-type: none"> 情報提供者数や受診勧奨者数に関する、レセプト集計結果の妥当性検証(医療機関向けアンケートの代替) 情報提供者数や受診勧奨者数の時系列動向分析(医療機関向けアンケートの高度化) 	<ul style="list-style-type: none"> 医科・歯科受診有無に関する集計 受診後の検査値改善傾向に関する分析 糖尿病・歯周病の有病率改善傾向に関する分析 ※属性(性別、年代、地域等)別に分析。 	検討事項例
<ul style="list-style-type: none"> 受診勧奨対象者の特定は可能か。 より多くのハイリスク患者に受診勧奨・受診を行うための工夫は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種検査値はレセプトにどの程度適切に記録されているのか。 次年度以降の分析に向けて聴取すべきデータは何か。 	

≪ 効果検証手法の分類 ≫

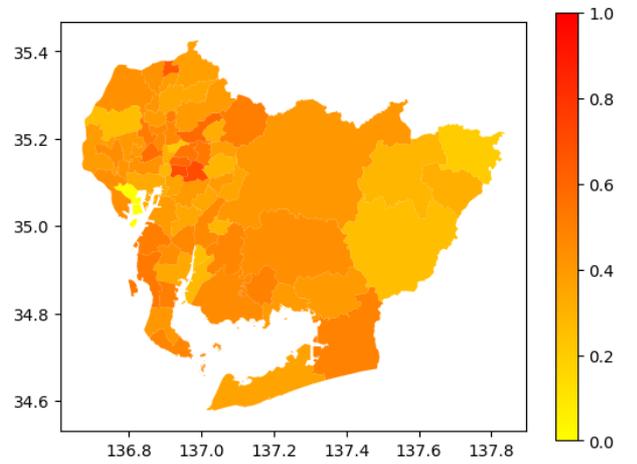
分析パターン	自治体における効果検証に向けた分析	愛知県における効果検証に向けた分析
前提	医歯薬連携プログラム(及びその他保健事業)の効果を検証する ※ただし、昨年度モデル事業の効果は限定的と考えられるため、本事業では各指標がベースラインに資するかが焦点	
コンセプト	患者の状態を追跡し、プログラムの効果を推測する  <ul style="list-style-type: none"> 患者の治療の状態を追跡するための指標を構築。 構築した指標から、医歯薬連携プログラムの効果についても、疑似的に確認可能。 	直接的にプログラムの効果を追跡する  <ul style="list-style-type: none"> 受診勧奨を厳密に定義し、プログラムの効果に関する指標を構築。 本事業では、プログラム実施後における患者のクリニック受診有無をプログラムの効果と定義した。
背景	<ul style="list-style-type: none"> 自治体では、効果検証のためのリソースが限定的。KDBの生データから集計可能である指標が望ましい。 患者の状態に関する単純集計によって指標を構築。 	<ul style="list-style-type: none"> レセプトデータによる効果検証の可能性を探索する目的で、愛知県の保険事業の一環として試行。 一患者に対して医科・歯科の両レセプトを追跡し、受診勧奨の状況をより正確に把握。

≪ 各月における市町村別の受診勧奨後歯科受診率 ≫

- 各系列間のばらつきは少なく、将来的な効果検証のベースラインとして活用可能と考えられる



≪ 2021年度における市町村別の受診勧奨後歯科受診率 ≫



3. 結果

【医歯薬連携プログラムの普及啓発】

- 医療専門職における医歯薬連携プログラムの認知度を上げるために、オンラインによるシンポジウムを開催。
- 医歯薬がプログラムに参加する意義やプログラムの効果等を、有識者委員や過去のモデル事業参加者の立場から伝え、プログラムへの理解や医師、歯科医師、薬剤師、及びコメディカルスタッフへの参加促進を図った。
- シンポジウムの周知にあたっては、愛知県の54市町村への案内に加え、愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県薬剤師会、愛知県看護協会、愛知県歯科衛生士会、愛知県栄養士会の協力のもと、各会の会員への案内を行った。

≪シンポジウムのリーフレット≫

≪パネルディスカッションにおける主な意見≫

- 医歯薬連携を進めていくうえでは、現場はもちろんのこと、**地区三師会や行政との連携を強化していくことが求められる**。また、医歯薬が連携して患者にアプローチしたことによる**予防効果を客観的なデータとして示していくことも、プログラム普及の上で重要**。
- **本プログラムは地域包括ケアの推進にも寄与できる**。特定保健指導など市町村の取組とも連動し、市町村・医科・歯科・薬局が連携して地域住民の健康に繋げていくことが重要。
- 昨今では国が公的データベースの構築を進めるなど、医療DXが進んでいる。**オンライン資格確認の導入が進むことで、医歯薬連携プログラムに活用していくことができるのではない**か。
- 愛知県では**薬局で薬剤師と栄養士が特定保健指導を行うモデル事業を実施している**。このような取り組みと本プログラムの組み合わせも**将来的には有効ではない**か。
- これまでかかりつけ医、かかりつけ歯科医というと、患者と医師・歯科医師の1対1の関係性を思い浮かべていたが、**今後は地域の連携によってかかりつけ医機能を発揮していくことが求められる**。

≪有識者委員によるパネルディスカッションの様子≫

≪豊橋市・市三師会におけるモデル事業紹介の様子≫

4. まとめ

市町村向け研修会の開催

- 本研修会を通じ、プログラム実施に向けた市町村に対する支援として、地区三師会への説明・調整のニーズが高いことが分かった。
- 今後、愛知県の市町村にプログラムを普及させるためには、**県あるいは県三師会から地区三師会に働きかけ事業の説明を行うなど、市町村が動きやすい環境づくりが求められる。**

プログラム導入支援

- 市町村への支援を通じて、地区三師会との連携体制構築にハードルを感じる市町村が多く、体制構築に時間を要することが分かった。
- 医歯薬連携プログラムの普及のためには、**地域の地区三師会への事業説明の支援を充実させるとともに、本プログラムの意義やメリットを医師・歯科医師・薬剤師をはじめとした関係者にしっかりと伝え、理解を促進することが重要。**

効果検証方法の検討

- 歯周病患者に対する医科クリニックへの受診勧奨は、KDBデータからの歯周病患者の特定が難しく、具体的な指標の構築には至らなかった。
- 今後の課題として、**KDBデータによる歯周病患者の特定、効果検証指標の追加検討、効果検証手法の市町村への普及の3点が挙げられる**
- **KDBデータの有用性の啓発等を含め、本事業の効果検証手法を市町村が自走して行える環境づくりが不可欠である。**

プログラムの周知

- 医療関係者に向けたシンポジウムに加え、保健所が主催する会議において医歯薬連携プログラムの紹介を行った。
- **糖尿病性腎症重症化予防地域連携推進会議には地区三師会が参加する機会も多く、また市町村をまたいだプログラムの実施という観点からも、二次医療圏単位、保健所単位での周知は有効と考えられる。**
- 各自治体が個別に地区三師会と調整する負担の軽減、プログラム実施時の自治体間の調整・意見交換の場としても活用できると考えられる。

5. 今後の方向性

- 今年度事業の最大のねらいは、モデル事業で開発した医歯薬連携プログラムをより多くの地域に実装することである。今年度は、複数の市町村において今年度あるいは次年度に本プログラムを実施することとなり、プログラム普及に向けた第1歩となった。
- 令和6年度の診療報酬改定では、糖尿病患者に対して歯科受診を推奨することが要件となるなど、医歯薬連携が重視されている。本事業で構築してきた医歯薬連携プログラムの目指す方向性とも一致しており、今般の診療報酬改定が本プログラム普及の追い風となると考えられる。

① 市町村がプログラム導入に向けて活動しやすい環境整備

- 愛知県や県三師会から地区三師会に働きかける/保健所単位でプログラムの周知を行うなど、市町村がプログラム導入に向けて活動しやすい環境整備が必要

③ 医歯薬連携プログラムの周知・啓発による認知度向上

- 医療関係者におけるプログラムの効果を含めた認知度の向上と、市民に対する啓発が重要。患者自身が本プログラムを知ることによってかかりつけ医等に働きかけることが期待できる

② プログラム実施の際の負担軽減

- 市町村によって対象者の数やマンパワー等が異なることから、地域の実情に応じた柔軟なプログラムの実施が必要
- その他、連携のためのツールの工夫も考えられる

④ プログラムのさらなる普及とエビデンスの蓄積

- プログラムの効果発揮のためには、多くの市町村でプログラムを実施することが必要
- 中長期的な効果を検証し、エビデンスを蓄積していくことが重要